

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月30日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500236

研究課題名（和文） 批判的図書館史研究の構築

研究課題名（英文） Studies on the Critical Library History

研究代表者

川崎 良孝（KAWASAKI YOSHITAKA）

京都大学・教育学研究科・教授

研究者番号：80149517

研究成果の概要（和文）：

本研究課題「批判的図書館史研究の構築」では、以下の2つの柱を中心に、具体的に批判的図書館史研究の業績を世に問うことで、図書館学研究の全般的レベルを上げることを目的にした。

(1) 図書館史研究の学説史的研究（全体研究）

(2) 批判的図書館史の研究（個別研究）

そして最終的な研究成果は、川崎良孝・吉田右子『新たな図書館・図書館史研究：批判的図書館史研究を中心として』（2011）として刊行した。

研究成果の概要（英文）：

This research project “Studies on the Critical Library History” focuses on the two parts. One is the historiography of library history research. The other is studies on the construction of the critical library history. Final results *Studies on the Critical Library History* was published in 2011.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：アメリカ公立図書館

科研費の分科・細目：情報学、図書館情報学・人文社会情報学

キーワード：公立図書館、アメリカ、批判的図書館史研究、プリント・カルチャー、黒人、女性

1. 研究開始当初の背景

図書館学は実務志向が非常に強い学問であり、それは必ずしも欠点とはいえないものの、研究という観点からみると、大きな限界をもたらしているのも事実である。また多くの図書館史の業績は素朴な個別の実証というレベルに留まっている。図書館史についての研究は少なくはないものの、研究者自らの問題意識が明確に伺われる業績は非常に少ない。素朴に、過去の図書館思想や図書館現象を再現したいと考えているようにさえ思える。ここには過去の図書館現象の再現にまつわる、研究者の視点、方法、資料操作、理論構成という面が抜け落ちている。

ところで研究代表者の川崎良孝は『アメリカ公立図書館成立思想史』（日本図書館協会、1991、335p：日本図書館学会賞受賞）で、図書館史研究の時代区分を行い、第1世代（1850-1930年：客観的事実史の時代）、第2世代（1930-1973年：民主的解釈派の時代）、第3世代（1973-：社会統制論の台頭）と3つに分けて、おのおの時代の代表的な図書館史研究者とその解釈をまとめた。また社会の動きと歴史学、教育史学、そして図書館史学がタイムラグを伴いつつ、相互関連にあることを実証した（同書「終論：史学史的検討」pp. 209-269）。

そののち社会の変化も受けて、アメリカでは歴史学、教育史学などの大きな進展があり、図書館史研究もそうした動きに大きな影響を受け、新たな段階に入っていると判断できた。それらを総合的にまとめるのが、本研究の背景であり契機であった。

2. 研究の目的

本研究プロジェクトは大きく2つで構成されている。すなわち「図書館史研究の学説史的研究」と「批判的図書館史の研究」である。

(1) 図書館史研究の学説史的研究（全体研究）

川崎は上記の『アメリカ公立図書館成立思想史』の第5章「終論：史学史的検討」（p. 209-270）で、アメリカ公立図書館史研究を史学史としてまとめた。そこでは図書館史研究を第1世代（1851年のジョサイア・クインシーのボストン・アセニウムを歴史の起点とする客観的な歴史記述、年代記的図書館史を特徴とする：1850-1930年）、第2世代（J. H. シェラ『パブリック・ライブラリーの成立』（川崎訳、日本図書館協会、1988）、S. ディツィオン『民主主義と図書館』（川崎訳、日本図書館研究会、1994）を中心とする公立図書館の成立と発展に関する民主主義的解釈派：1930-1973年）、第3世代（M. ハリスの社会統制論：1973-）に整理し、各世代の研究者の基本的視点、解釈、問題点を系統的に探求した。

本研究プロジェクトでは、第3世代を代表す

るいま1人の研究者D. ギャリソン（図書館史研究に女性を初めて本格的に導入した）を取り上げることで、第3世代の図書館史研究の全体像を解明する。

そして1990年以降のウェイン・A. ウィーガンドを中心とする図書館史研究者を第4世代の研究者と位置づけ、その全体的な特徴の解明に焦点をあてる。そこではリーディング・スタディーズ、プリント・カルチャー史など学際的な業績、階級、ジェンダー、人種などを重視した業績、第1次史料を駆使した本格的な歴史的研究ができてきている。それらの研究者（第4世代）の背景、問題意識、解釈などを全体的に解明するのが、この第1部の目的である。それは同時に以下に示す第2部の各論を検討する枠組みを示すものでもある。

(2) 批判的図書館史の研究（個別研究）

1990年代以降に、プリント・カルチャーやリーディング・スタディーズという図書館研究にかかわる学際的領域、それに階級、ジェンダー、人種を視野に入れた批判的図書館史研究、第1次史料を駆使した研究が、新たな問題意識、視点、方法で展開されてきた。

(1) 「図書館史研究の学説史的研究」はアメリカ図書館史研究の学説史を骨太に記述する基礎的部分であるが、この(2)「批判的図書館史の研究」では特に1990年代以降（第4世代）からの図書館史研究の方法・視点などの大きな変化に鑑み、いわば各論として個別研究を進める。そこでは、以下の5つの柱を立てている。

①ウェイン・A. ウィーガンド（Wayne A. Wiegand）と図書館史研究（担当：川崎）：第4世代の図書館史研究の牽引者ウィーガンドの図書館史研究を紹介し、考察する。

②アビゲイル・ヴァンスリック（Abigail Van Slyck）と図書館史研究（担当：吉田右子（筑波大学）・川崎）：新しい視点と方法で研究に取り組む建築史研究者ヴァンスリックの図書館史研究を紹介し、考察する。

③クリスティン・ポーリー（Christine Pawley）と図書館史研究（担当：吉田・川崎）：プリント・カルチャーの手法を図書館史研究に適用したポーリーの図書館史研究を紹介し、考察する。

④ジェンダーと図書館史研究（担当：吉田）：ジェンダーと図書館史研究について時代区分を行い、とりわけ1990年代以降多くの業績がだされてきた女性と図書館史について、諸論をまとめ、批判的に検討する。

⑤黒人と図書館史研究（担当：川崎）：川崎の『アメリカ公立図書館・人種隔離・アメリカ図書館協会』（京都大学図書館情報学研究会発行、日本図書館協会発売、2006、397p：日本図書館情報学会賞受賞）で使用した文献をもとに、黒人と図書館史研究について史学史をまとめる。

以上のような全体研究と各論研究によって、アメリカにおける図書館史研究の現在の到達点を解明することが、本プロジェクトの目的である。

3. 研究の方法

基本的に本プロジェクトは文献研究であり、以下の2つの柱で構成されている。

(1) 図書館史研究の学説史的研究(全体研究)

既述のように、この部分は川崎に一定程度の蓄積があり、最近の歴史学、教育史学、図書館史学の業績を、前者2つについては重要な業績を、図書館史学については網羅性を重視して文献を収集した。そして、この部分の完成を先発させるという方法を用いたが、それは(2)を意義づけるための大きな枠を設定する必要があるためである。

(2) 批判的図書館史の研究(個別研究)

この部分は、既述のように川崎『アメリカ公立図書館・人種隔離・アメリカ図書館協会』で一定の準備があった「公立図書館史研究における黒人」を除いては、いずれも網羅的な文献の収集から着手した。「ウェイン・A. ウィーガン」(担当:川崎)、「クリスティン・ポーリー」(担当:吉田・川崎)、「アビゲイル・ヴァンスリック」(担当:吉田・川崎)については完全な業績一覧を作成し、それらをすべて入手して、3人の研究者の背景、問題意識、具体的な歴史研究の手法や解釈を整理し分析していった。一方、「公共図書館史研究におけるジェンダー」(担当:吉田)については、吉田がこれまで蓄積してきた研究をさらに強める方向をとった。

この個別研究については、査読付きの学術雑誌への掲載を当座の目的に、単行本にまとめることを最終的な目的にした。そのために年に2回、関連図書館学方法論研究会を開催して、川崎と吉田が提出する論文を、連携研究者の小林卓(実践女子大学)と三浦太郎(明治大学)が批判的に検討するという方法を用いた。またアメリカの現状と資料入手の助力を得るために、安里のり子(ハワイ大学コンピュータ情報科学部図書館情報学科)が関連図書館学方法論研究会に参加した。

また2010年、2011年の夏には研究会の前に、一般公開の京都国際図書館フォーラムを京都大学で開催し、研究会会員の研究成果の一部を報告した。なお2011年3月20日に東京での開催を予定していた関連図書館学方法論研究会は、東日本大震災がために開催できなかった。しかしながら、本プロジェクトは当初の予定通り順調に進んだ。

4. 研究成果

最終的成果として以下の学術単行書を刊行できた。川崎良孝・吉田右子『新たな図書

館・図書館史研究:批判的図書館史研究を中心として』京都図書館情報学研究会発行・日本図書館協会発売、2011、402。本書は大きく第1部と第2部に分かれているが、研究成果の具体的な内容は以下のとおりである。

(1) 「図書館史研究の学説史的研究」の部分の特色と意義

アメリカの図書館史研究については、*Libraries and the Cultural Records* (以前の *Libraries and Culture*) が2年あるいは3年間に一度、図書館史の文献展望を行ってきた(但し2000年以降は若干とどこおっている)。担当期間に取り上げる文献の網羅性は高いが、アメリカ図書館史研究の全体的学説史には当然ながらなっていない。学説史としては、シェラ(1945, 1973)があるが、これらはシェラ自身の第2世代までの文献を取り上げている点で、1970年代以降の大きな図書館史記述の変化を扱っていない。最近の最も包括的な図書館史の学説史的研究は、ウェイン・A. ウィーガンの「アメリカ図書館史研究 1947-1997: 理論的検討」(“American Library History Literature, 1947-1997: Theoretical Perspectives?” (*Libraries and Culture*, 2000, pp. 4-43)であるが、時代区分は行っておらず、とりあげた研究者の業績について深い記述はなされていない。また取り上げた文献は戦後に限定されている。こうした研究の状況に鑑みた場合、本研究はアメリカの研究をしのぐ、幅の広さと深さをもって、図書館史の学説史を包括的にまとめた点に、大きな学術上の特色と意義がある。

(2) 「批判的図書館史の研究」の部分の特色と意義

例えば第4世代の代表的図書館史研究者はウィーガンであるが、その膨大な業績を整理し、視点、方法、解釈を研究した業績はアメリカでも存在しない。そうしたことも含めて、この各論部分で提示する諸論は、アメリカの最先端の図書館史研究の現状と課題を明確に描き、検討するとともに、日本におけるアメリカ図書館史研究(および日本図書館史研究)の視点や方法に示唆を与える点で、大きな意義を有する。そしてこの各論の部分は、「ウェイン・A. ウィーガンと図書館史研究: 第4世代の牽引者」、「クリスティン・ポーリーと図書館史研究」、「アビゲイル・ヴァンスリックと図書館史研究」といった顕著な研究者を取り上げた部分と、「公立図書館史研究における黒人: 人種隔離を中心として」、「アメリカ公共図書館史研究におけるジェンダー」といった批判的研究に欠かせない人種とジェンダーを扱った部分で構成されている。このうち「ウェイン・A. ウィーガンと図書館史研究」、「公立図書館史研究における黒人」は長文のため川崎の講座が発行す

る紀要(『京都大学生涯教育学・図書館情報学研究』)に掲載したが、他はすべて日本図書館研究会の学術雑誌『図書館界』、三田図書館情報学会の *Library and Information Science* に掲載された査読論文である。

なお、本書『新たな図書館・図書館史研究：批判的図書館史研究を中心として』は単に図書館史研究に関する図書ではない。そこには図書館研究に関する研究について、基本的な視座や問題意識など、参考にすべき点が多く含まれている。そうした意味で、本研究の成果は単に図書館史研究にとどまらず、広範な意味を有するものである。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計5件)

- ①川崎良孝、ウェイン・A. ウィーガンと図書館史研究：第4世代の牽引者、京都大学生涯教育学・図書館情報学研究、査読無、Vol. 10, 2011, pp. 5-36、
<http://hdl.handle.net/2433/139417>
- ②吉田右子・川崎良孝、クリスティン・ポーリーと図書館史研究、図書館界、査読有、Vol. 62, No. 6, 2011, pp. 392-410、
- ③吉田右子、アメリカ公共図書館史研究におけるジェンダー、査読有、*Library and Information Science*, No. 64, 2010, pp. 1-31、
<http://lis.mslis.jp/pdf/LIS064001.pdf>
- ④川崎良孝、公立図書館史研究における黒人：人種隔離を中心として、京都大学生涯教育学・図書館情報学研究、査読無、Vol. 9, 2010, pp. 15-58、
<http://hdl.handle.net/2433/109760>
- ⑤吉田右子・川崎良孝、アビゲイル・ヴァンスリックと図書館史研究、査読有、図書館界、Vol. 61, No. 1, 2009, pp. 2-15、
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007819774>

[学会発表] (計3件)

- ①吉田右子、アメリカ公共図書館史研究におけるジェンダー、第2回京都国際図書館セミナー (2nd Kyoto International Library Forum)、京都大学大学院教育学研究科グローバルCOEプログラム・京都大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室、2011.8.8、京都大学
- ②小林卓、公立図書館における多文化サービス、第2回京都国際図書館セミナー (2nd Kyoto International Library Forum)、京都大学大学院教育学研究科グローバルCOEプログラム・京都大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室、2011.8.8、京都大学
- ③川崎良孝、サービス・アクセス・秘密性、第2回京都国際図書館セミナー (2nd Kyoto International Library Forum)、京都大学大学院教育学研究科グローバルCOEプロ

ラム・京都大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室、2011.8.8、京都大学

[図書] (計1件)

- ①川崎良孝・吉田右子、京都図書館情報学研究会発行・日本図書館協会発売、新たな図書館・図書館史研究：批判的図書館史研究を中心として、2011、402

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川崎 良孝 (KAWASAKI YOSHITAKA)
京都大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：80149517

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

吉田 右子 (YOSHIDA YUKO)
筑波大学・図書館情報メディア研究科・教授
研究者番号：30292569
三浦 太郎 (MIURA TARO)
明治大学・文学部・講師
研究者番号：40361597
小林 卓 (KOBAYASHI TAKU)
実践女子大学・文学部・准教授
研究者番号：70260643